

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
2014年度 (後期) 一般公募「在宅医療研究への助成」

「在シドニー日本人高齢者、高齢化に関する意識・ニーズ調査と日本語での情報提供」

研究完了報告書

研究者 渡辺百合子 (リハビリテーション科医師)
Sacred Heart Rehabilitation Service, St. Vincent's Hospital, Sydney,
NSW, Australia

共同研究者 本田一馬 (正看護師, シドニー日本人看護師会)
Gosford Hospital, Gosford, NSW, Australia

提出年月日

2016年2月19日

1. はじめに

外務省は毎年、海外在留邦人数調査統計(長期滞在者と永住者)を公表している。オーストラリアは3番目に海外在留邦人が多い国で(1位:アメリカ合衆国、2位:中国)その数は年々増加している(8万1,981人;平成26年要約版による)。オーストラリア在留邦人届の37.6%はシドニー総領事館に届出されている。

オーストラリアは多民族多文化の国で国勢調査(2011年)によると4人に1人はオーストラリア以外の国で生まれている。日本生まれは(オーストラリア全体で)約3万5千人で(250国以上の中で)32位である。2006年の国勢調査と比べて数は増えている(2006年:約3万人)。家庭で話す言語として日本語を話す人は(オーストラリア)全体の0.2%であるが、今後オーストラリアで高齢期を迎える日本人数は増加していく可能性がある。

ニューヨーク日本人会は2006年に「高齢者問題に対する意識調査」を実施している(対象50歳以上)。回答者の38%が65歳以上、また65歳以上女性の44%が独り暮らしであった。回答者の半分が日本語のほうが話しやすいと答えている。自分で身の回りの世話ができなくなったとき、半数以上の人(57.3%)が家族による介護もしくは在宅ケアを利用しながら自宅で生活をしたいと回答している。

オーストラリアにおける日本人高齢者に関する研究・調査はほとんど行われていない。マイノリティーの日本人高齢者が在宅で医療・看護・福祉サービスを対等に受けることができるために、まずは日本人高齢化の実態、意識・ニーズ調査が必要である。また日本語で医療に関する情報を提供する必要がある。

2. 研究の目的

- (1) シドニー/New South Wales (NSW)州在住日本人(60歳以上)の実態(生活状態、健康・活動レベル、言語)、老後に対する意識、ニーズを知ること(以下:アンケート調査)
- (2) シドニー/NSW州在住日本人を対象に高齢者医療、看護、福祉について日本語で情報を提供するセミナー並びにワークショップの開催

3. 研究方法

(1) アンケート調査

- A) 質問票：ニューヨーク日本人会のアンケート内容を基に日本語で作成。健康、日常生活動作に関する質問も加えた。質問は合計31項目(全6ページ)、最後に自由にコメントを記入できる欄を設けた。
- B) 対象者：シドニー地区またはNSW州に在住する60歳以上の日本人を対象とした。ただ日本人高齢者人口を正確に把握している団体や機関がないため(総領事館除く)以下の団体に調査協力をお願いのチラシ配布、また広告を掲載していただいた。
- 日系のかかりつけ医 (General Practitioners: GPs)
 - 日豪プレス
 - J E N T A
 - Japan Club of Sydney コミュニティーネット
- また日本人高齢者医療・福祉セミナー開催時に参加者にアンケート調査協力をお願いした。
- C) 方法：アンケート調査はすべて郵送とした。アンケート調査に協力(返送)していただいた方で希望される方に20ドルのギフト券を謝礼として後日郵送した(アンケート返送時に名前と連絡先を記入してもらう必要があり、個人が特定されるので、希望者のみとした)
- D) 当研究者が勤務する St Vincent' s 病院の倫理委員会に研究プロトコルを提出し承認をえた。情報は本研究以外には使用されないことを対象者に伝え収集された。
- E) 解析：エクセルを用いて記述的解析

(2) 高齢者医療・福祉セミナー/ワークショップ

A-1) 内容：第1回は「日本の高齢者医療福祉の現状を知る」をテーマに日本の現状を紹介し、在豪日本人の現状と今後についてセミナーを開催した（平成27年3月27日）。参加申し込み多数だったため、同内容で追加セミナーを開催した（4月11日）。第2回は「オーストラリアの医療制度を知る（パブリック編）」をテーマに平成27年9月26日に開催した。

講師・講演内容：

第1回セミナーはシドニー留学経験もあり、現在国立精神神経医療研究センター勤務の早乙女先生に講演をお願いした。（追加セミナーは当研究者、渡辺がかわりに講演）。在豪日本人の現状と今後については、シドニーで高齢者介護事業を運営している沼田氏をお願いした。（資料1、2、3、4：プログラム並びにフィードバック 参加者に配布）

第1回セミナー 講演タイトル

- 「日本の医療保険システムと高齢者医療の現状」
- 「在豪日本人の現状とこれから考えるべきこと」
- 「在豪邦人コミュニティサポートの必要性と今後の活動について」

A-2) 第2回セミナーは「オーストラリアの医療制度」について当研究者の渡辺が、「実際の入院、退院までの流れ」を作業療法士・ケースマネージャーの徳能氏に、「医療通訳の利用の仕方」を医療通訳士の松本氏に講演をお願いした。（資料5、6：プログラム並びにフィードバック 参加者に配布）

第2回セミナー 講演タイトル

- 「オーストラリアの医療制度（利用者の立場から）」
- 「もしケガや病気で入院したらー実際の例・退院までの流れ」
- 「医療通訳の利用のしかた」

A-3) ワークショップは「オーストラリアの医療制度（パブリック編）について学ぶ」について当研究者の渡辺が、セミナーでカバー仕切れなかった部分をより具体的に実際の医療現場での事例を用いながら行

った。(資料7、8:プログラム並びにフィードバック 参加者に配布)

ワークショップ 講演タイトル

- 「オーストラリアの医療制度（パブリック編）について学ぶ」

B) 参加者：シドニー地区またはNSW州に在住する日本人を対象（60歳以上の方優先）。

C) 日時：第1回セミナーは3月27日（金）に St Vincent's 病院のセミナールームで開催。追加セミナーは4月11日（土）にコミュニティーセンターで開催。第2回セミナー（9月26日）、そしてワークショップ（11月4日）も同様にコミュニティーセンターで開催した。

D) フィードバック用紙：参加者にはセミナー並びにワークショップ終了後フィードバック用紙への記入をお願いし、アンケート調査へ協力もお願いした（第1回セミナー時のみ）。（資料2、4、6、8）

4. 結果

(1) アンケート調査

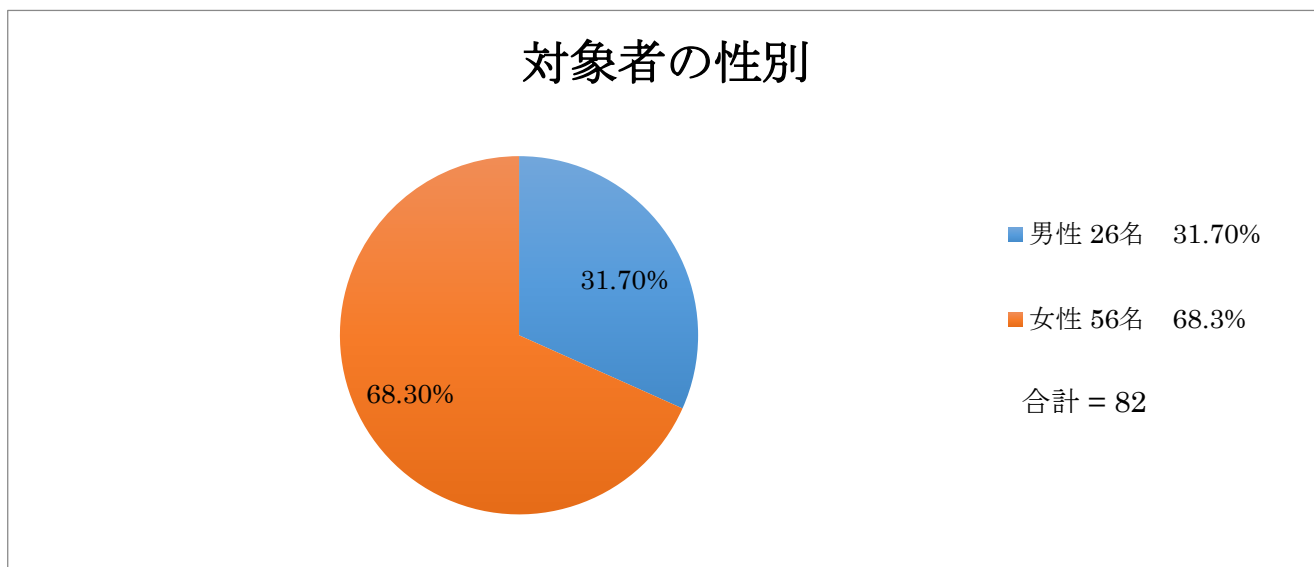
2015年3月～5月にかけてアンケート調査に対して問い合わせがあった方にアンケート用紙を郵送（あるいはセミナー時に手渡し）した。82名の方からアンケートの結果を回収し、エクセルを用いて記述的に解析した。

回答者の属性について

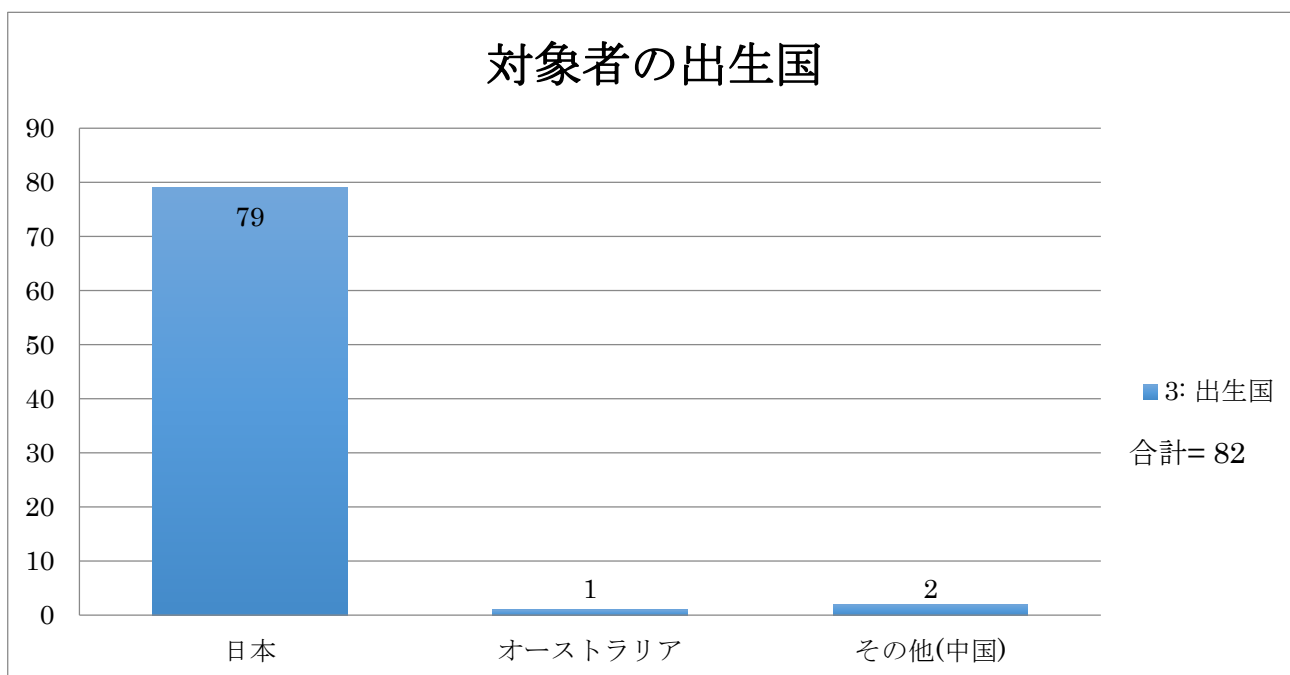
回答者の年齢は中央値が69歳、平均値が70.5歳であった（60歳～85歳）。82名中、14名（17.1%）は80歳以上であった。

年齢	
平均値	70.5 歳
中央値	69 歳

回答者の性別は、男性が26名(31.70%),女性が56名(68.3%)であった。



回答者の出生国は、「日本」が79名と最も多く、次に「その他」が2名、「オーストラリア」が1名であった。



オーストラリアでのビザの種類に関して伺ったところ、「オーストラの永住権保持」が71名(86.6%)と最も多かった。

オーストラリアでのビザの種類

オーストラリア国籍（市民権保持）	9	11%
永住権保持	71	86.6%
長期滞在ビザ	2	2.4%
その他	0	0%
合計	82	100%

住居地域に関しては、回答者すべてがシドニー行政地区にすんでおり、その中でNorthern Sydney（ノーザンシドニー）地区に住んでいる人がもっとも多かった（61名、74.4%）

対象者の住居地域

ノーザンシドニー	61	74.4%
サウスイースタンシドニー	9	11.0%
シドニー	4	4.9%
ウエスタンシドニー	2	2.4%
サウスウエスタンシドニー	1	1.2%
ネピアン・ブルーマウンテン	1	1.2%
イラワラ	1	1.2%
セントラルコースト	1	1.2%
無回答	2	2.4%
合計	82	100%

オーストラリア滞在年数を伺ったところ以下のとおりであった。
「30年以上」と答えた者が31名（37.8%）と最も多かった。

オーストラリア滞在年数

10年未満	8	9.8%
10年から19年	13	15.9%
20年から29年	30	36.6%
30年以上	31	37.8%
合計	82	100%

オーストラリアに移り住むようになった理由は以下の通りであった。「結婚（配偶者、パートナー）とともに」が25名（30.5%）で最も多かった。「成人した子どもから移住を誘われた」と14名（17.1%）が回答した。

オーストラリアに移り住むようになった理由		
仕事のため	18	22.0%
留学（学校）のため	1	1.2%
結婚（配偶者、パートナー）とともに	25	30.5%
親の移住とともに	0	0%
成人した子どもから移住を誘われた	14	17.1%
（定年）退職後、余暇を過ごすため	12	14.6%
その他	12	14.6%
合計	82	100%

住居形態を伺ったところ以下の通りであった。少なくとも64名（78%）の回答者は個人で所有している家（一戸建て、あるいはアパート）に住んでいた。「高齢者用施設（ホステル・ナーシングホーム）」は0名（0%）であった。

現在の住居形態		
一戸建て（賃貸）	3	3.7%
一戸建て（所有）	37	45.1%
ユニット（アパート）賃貸	9	11.0%
ユニット（アパート）所有	27	32.9%
グラニーハウス	2	2.4%
ボーディングハウス・シェア	0	0%
リタイアメントビレッジ（インディペンデントリビング ユニット）	2	2.4%
高齢者用施設（ホステル・ナーシングホーム）	0	0%

その他	2	2.4%
合計	82	100%

また回答者のうち14名が一人暮らしであった。

普段話しやすい言語を伺ったところ「日本語」が55名（67.1%）で最も多かった。

普段話しやすい言語は？		
日本語	55	67.1%
英語	1	1.2%
日本語と英語の併用	19	23.2%
その他	1	1.2%
無回答	6	7.3%
合計	82	100%

英語のレベルを伺ったところ以下の通りであった。半分以上の回答者が日常生活会話レベルあるいは、ほとんど英語が話せないレベルであった。

英語はおおよそどのレベルですか？		
ネイティブと同じレベル	7	8.5%
日常生活には支障なくビジネスでも使えるが、法律・医療に関するコミュニケーションは難しい	26	31.7%
日常生活に支障はないが、ビジネスは難しい	20	24.4%
挨拶など簡単な日常会話程度	19	23.2%
ほとんど話せない	4	4.9%
無回答	6	7.3%
合計	82	100%

現在の主な就業状況に関する設問の回答は以下の通りである。「退職（定年退職含む）」が31名（37.8%）で最も多かった。これはアンケート対象者を60歳以上としていることによると思われる。

現在の主な就業状況		
フルタイム	4	4.9%
パートタイム	8	9.8%
フリーランス	1	1.2%
自営業	8	9.8%
家事専業	20	24.4%
休職中（健康上の理由含む）	0	0%
求職中	0	0%
退職（定年退職含む）	31	37.8%
その他	4	4.9%
無回答	6	7.3%
合計	82	100%

収入に関しては41名が日本から公的年金を受給しており、22名がオーストラリアの老年年金を受給していた。

健康状態に関する設問

健康状態に関する設問の結果は以下の通りである。

（健康または身体的理由により）階段10段登ったり、400メートル歩くことは難しいと感じますかという設問に、「いいえ」と回答した者が多かった。

（健康または身体的理由により）階段10段のぼったり、400メートル歩くことは難しいと感じますか？		
はい	8	9.8%
いいえ	74	90.2%
合計	82	100%

しかし6割以上の回答者が筋力低下、バランス低下を実感したことがあると答えていた。

筋力低下、バランス低下を実感したことがありますか？		
はい	52	63.4%
いいえ	30	36.6%
合計	82	100%

15名が過去12カ月以内に転倒したことがあると回答した。

過去12ヶ月、転倒したことはありますか？		
はい	15	18.3%
いいえ	67	81.7%
合計	82	100%

慢性疾患に関する設問に関するは37名(45.1%)が少なくとも1つの慢性疾患をもっていると回答した。

慢性疾患を持っていますか？（高血圧、糖尿病、関節症、脳卒中、パーキンソン病、心臓疾患、肺疾患、精神疾患など）		
はい	37	45.1%
いいえ	45	54.9%
合計	82	100%

半数以上の回答者が現在、医師から処方された薬を飲んでいていた。

現在、医師から処方された薬を飲んでいますか？		
いいえ	37	45.1%
はい：1～5種類	42	51.2%
はい：1～5種類以上	3	3.6%
合計	82	100%

過去12カ月の入院歴（救急外来のみの受診、日帰り手術は除く）に関する設問の結果は以下の通りである。

過去12ヶ月、病院に入院したことがありますか？（救急外来のみの受診、日帰り手術は除く）

はい	9	11.0%
いいえ	72	87.8%
無回答	1	1.2%
合計	82	100%

約4人に1人が過去12カ月中、3ヶ月以上続く痛み（関節痛、腰痛など）がある（もしくは、あった）と回答した。

過去12ヶ月、3ヶ月以上は続く痛み（関節痛、腰痛など）がありますか？

はい	21	25.6%
いいえ	58	70.7%
無回答	3	3.7%
合計	82	100%

現在の身の回りの世話で援助が必要かどうかという設問に対し、一人のみ、援助が必要であると回答していた。

現在、自分の身の回りの世話で援助が必要ですか（シャワー、着替えなど）

はい	1	1.2%
いいえ	78	95.1%
無回答	3	3.7%
合計	82	100%

現在の家事・日常生活に対して援助が必要かどうかという設問に対し、ほとんどの人が援助は必要でないと回答していた。

現在、家事・日常生活（掃除、買い物、食事の準備、洗濯など）で
援助が必要ですか？

はい	8	9.8%
いいえ	71	86.6%
無回答	3	3.7%
合計	82	100%

（‘援助が必要’と回答された方へ）、誰に援助が必要ですか？という設問の結果は以下の通りである（○はいくつでも可）。8名の方から回答を得た。

（“援助が必要”と回答された方へ）誰に援助をしてもらっていますか？（○はいくつでも可）

配偶者・パートナー	3
子供	1
兄弟・姉妹	0
友人	0
市域の団体や政府によるサービス	3
その他	3
合計	8

もし、自分の身の回りの世話ができなくなった時に誰にお世話をしてもらいたいか？という設問にたいしての結果は以下の通りである（○はいくつでも可）。「介護・福祉専門家」が53名と最も多かった。

もし、自分の身の回りの世話ができなくなった時、誰にお世話をしてもらいたいですか？（○はいくつでも可）

配偶者・パートナー	30
子供	23
兄弟・姉妹	0
友人	3
介護・福祉専門家	53
誰でもいい・わからない	7
その他	1
無回答	5

もし、自分で身の回りのことができなくなった時、どのようなケアを希望するか？という設問に対し結果は以下の通りである。「在宅ケア（訪問看護含む）を利用しながら在宅で生活したい」が32名（39.0%）と最も多かった。

もし、自分で身の回りのことができなくなった時、下記のどれを一番に希望されますか？（○は一つ）

家族による自宅での介護	8	9.8%
在宅ケア（訪問看護含む） を利用しながら在宅で生活したい	32	39.0%
高齢者用施設（ホステル・ ナーシングホーム）に行く	14	17.1%
オーストラリアに日系の 高齢者施設があれば、そこ に行きたい	27	32.9%
その他	0	0%
無回答	1	1.2%
合計	82	100%

将来・老後に関する設問

対象者の将来・老後に関する設問の結果は以下の通りである。

どこで老後を過ごそうと考えていますか？もしくは計画していますか？という設問に対する結果は以下の通りである。長年オーストラリアに住んでいても「決めていない・わからない」と回答した人が25名（30.5%）いた。

どこで老後を過ごそうと考えていますか（計画していますか）？

日本	12	14.6%
オーストラリア	45	54.9%
決めていない・わからない	25	30.5%
その他	0	0%
合計	82	100%

(上記設問で“日本”と答えた12名へ)日本に帰国される理由はなんですか？という問いに対して、「言葉」と「食事」が大きな理由となっていた。

(前設問で“日本”と答えた方へ)日本に帰国される理由はなんですか？ (○はいくつでも)	
日本に親がいるから(介護を含む)	0
日本に家族・親戚がいるから	5
日本に住居があるから	4
日本に職(収入源)があるから	0
言葉(コミュニケーション)	6
食事	7
日本の高齢者施設に入居したいから	3
日本で死を迎えたいから	1
お墓の問題	2
子供のため	1
その他	1
	12名が回答

日本で迎える老後に対して不安はありますかという設問に対し、28名が「不安がある」と答えていた。

また老後を「オーストラリア」と回答された45名は「オーストラリアで老後を迎えるにあたって不安はありますか？」という設問に対し以下のように回答した。

やはり「言葉」と「食事」が不安因子となっていた。

(老後を“オーストラリア”と回答された方へ)オーストラリアで老後を迎えるにあたって不安がありますか？(○はいくつでも可)

言葉(コミュニケーション)	31
食事	28
家・住むところ	7
収入・経済状態	12
日本にいる両親(家族)の介護・お世話	0
オーストラリアの医療・介護制度、手続きがわからない	19
自分の身の回りの世話ができなくなる	22
自分で判断ができなくなった時に頼る人がいない	10
頼れる家族・友人がいない	4
孤独	5
その他	1
	45名が回答

オーストラリアで老後を迎える時、または援助が必要になった時、希望されることはなんですか？という設問に対し71名から以下のような回答を得た(○はいくつでも可)。

オーストラリアで老後を迎える時、または援助が必要になった時、希望されることはなんですか？(○はいくつでも可)

話し相手(誰でもいい)	16
日本語ができる話し相手	34
銀行、年金、保険などの手続きのお手伝い	20
身体介助(英語)	10
身体介助(日本語)	42
家事援助(英語)	10
家事援助(日本語)	30

日本食の宅配サービス	34
医療・看護サービス（日本語）	48
日本人のためのデイサービス（高齢者同士の交流・娯楽の場）	31
オーストラリアの高齢者サービスを受けるためのお手伝い（手続きなど）	24
オーストラリアの高齢者施設への入居のお手伝い	12
日本人向けの高齢者施設	31
その他	1
無回答	11

最後に自由記述方式で下記のような意見が得られた

ご意見があればご自由にお書きください

- 日本式のサービス、日本語のほうが理解しやすい
 - 英語は今は不自由しないが、この先しゃべれなくなるという不安
 - 日本語で相談できる窓口がほしい
 - 日本語のできる医師、看護師による往診希望
 - 日本語で日本人の体質にあう医療サービスを受けたい
 - 英語力不足なので、日常のちょっとした事への（英語の）援助がほしい（適正な値段で）
 - 10-20年後に日本人向けの高齢者施設が必要
 - 家族にばかり負担をかけることはできないので、いろいろなサービス運営を期待
-
-

-
- アンケートを記入しながらいろいろ実感し、自分なりに準備、努力をしたい
-
- オーストラリアは治安、気候、物価、住居など住むのにはよいところ
-
- 近くに日本人のよい一般開業医がいて相談できる状態が希望
-
- 配偶者が介護者。もし配偶者が入院でもすることになったら心配、不安。
-

(2) セミナー・ワークショップ フィードバック

参加者にはセミナー並びにワークショップ終了後フィードバック用紙への記入をお願いした。(資料2, 4, 6, 8)

第1回セミナーでは(3月27日と4月11日合わせて)80名以上の参加者があり、活発に質疑応答がなされた。フィードバック(資料2, 4)では「すごく良かった」「様々な現状をよく理解でき、とても勉強になった」「内容が充実しており、知りたかったことがよくわかった」「こういった情報が今までなかったので良かった」「オーストラリアで利用出来る施設・団体などが知りたい」「プライベート医療保険などの選択肢が知りたい」などのコメントが多数寄せられた。(資料9:セミナー時の写真)

第2回セミナーでは(9月26日)約90名の参加者があり、第1回セミナー同様に活発に質疑応答がなされた。フィードバック(資料6)では「とても興味のある内容で、複雑な医療システムについての理解が深まった」「具体的な事例があり分かりやすかった」「大変有意義なセミナーで、良い内容でした」「オーストラリアの医療制度に対してわからないことが多かったので、とても興味のある内容でした」「こちらの老人ホームについてもっと知りたい」「プライベート医療・保険に関して教えて欲しい」などのコメントが多数寄せられた。(資料10:セミナー時の写真)

11月4日に開催されたワークショップでは12名の方々が参加され、第2回セミナーでカバーできなかった部分をより詳しく事例を踏まえながら少人数で説明することにより有意義な時間となった。第1回と第2回セミナー同様に活発な質疑応答がなされた。フィードバック(資料8)では

参加者全員がオーストラリアの医療制度（パブリック編）の理解を深めることができたと答えた。そしてワークショップの内容についても「大変満足」、もしくは「満足」という答えだった。（資料 1 1 : セミナー時の写真）

5. まとめ

（1）アンケート調査

今回のアンケート調査で、82名のシドニー在住日本人の協力を得ることができた。対象者の平均年齢は70.5歳で、82名のうち14名は一人暮らしという状況であった。大部分の回答者（74.4%）はオーストラリア在住歴が20年を超えていたが、多くの方が英語は得意ではないと答えていた。

「言葉（コミュニケーション能力）」や「食事」がオーストラリアでの老後に対する大きな不安要素であることがわかった。

慢性疾患の既往、また筋力・バランス低下を実感しながらもある程度自立した日常生活を送っていることがわかった。

シドニー在住日本人高齢者の身体機能、自立度を維持するため、さらなるデータ（信頼性が高い評価用紙を使用した面接によるデータ収集など）、また転倒防止プログラムなど「予防」に焦点をあてた日本語による介入性のプログラムが必要である。

（2）セミナー・ワークショップ

予想以上の参加者で、関心の高さが明らかになった。セミナーとワークショップに対するポジティブなフィードバックまた今後のセミナーに対するリクエストなどが参加者から多数寄せられた。これからも日本語による定期的なセミナー、ワークショップが必要であると思われた。

6. 謝辞

本研究にご協力いただきました在シドニー邦人の皆さまに心からお礼申し上げます。本研究は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成によるものである。

7. 感想

貴財団の助成で「アンケート調査」そして「セミナー・ワークショップ」を行うことができ、大変感謝しております。

オーストラリアは3番目に海外在留邦人が多い国にもかかわらず、これまで60歳以上の長期滞在者を対象とした調査はほとんどなく、今回の調査で貴重な基本データが得られました。「結婚」だけでなく、「定年後の余暇」あるいは「成人した子供から移住を誘われた」など、いわゆる戦後の「戦争花嫁」と異なり、ある程度年をとってからの移住組の存在も明らかになり、滞在年数に関係なく英語を苦手とする人が多いこともわかりました。介助が必要になったときは「在宅」を希望する人が多く、「言葉」「食事」が大きな不安要因になっており、そのため「やはり老後は日本で」と考えている人も少なくありませんでした。

アンケートに協力していただいた方は、ある程度自立して日常生活を送っている人が多く、自立度を維持するためにも早期に日本語での予防プログラムが必要と考えています。

資料 1 : セミナープログラム (3月27日分)

日本人高齢者医療・福祉セミナー
第1回 : 日本の高齢者医療福祉の現状を知る

日時 : 2015年3月27日(金)

Seminar room, Sacred Heart Health Service
St Vincent's Hospital

プログラム

13:45	開場	
14:00 -14:10	ご挨拶	St Vincent's Hospital 渡辺
14:10 -14:40	日本の医療保険システムと 高齢者医療の現状	国立精神神経医療研究セン ター 早乙女
14:40 -15:10	在豪日本人の現状とこれから考える べきこと	創生会インターナショナル 沼田
15:10 -15:30	休憩	
15:30 -15:50	在豪邦人コミュニティーサポートの 必要性和今後の活動について	創生会インターナショナル 沼田
15:50 -16:00	質疑応答、フィードバック用紙記入, ご挨拶	シドニー日本人看護師会 本田

国立精神神経医療研究センター 早乙女: リハビリテーション科医師。身体障害リハビリテーションに携わる

創生会インターナショナル 沼田: 在豪歴23年。2013年に創生会インターナショナルを立ち上げ、シドニーで家事代行・高齢者介護事業を運営している



このセミナーは公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けて
います

資料 2 : セミナーフィードバック用紙

第 1 回 : 日本の高齢者医療福祉の現状を知る (2015年3月27日)

本日はお忙し中、日本人高齢者医療・福祉セミナーに参加していただきありがとうございます。今後も在豪日本人の皆様へ医療・社会福祉について日本語で情報を提供していきたいと考えております。

セミナー改善のために役立たせていただきたいとおもいますので、少しお時間をいただいてこのアンケートにご回答いただきますようお願いいたします。

1. 本日のセミナーの内容はいかがでしたか？
2. セミナーの開催日時、時間、場所はどのようにでしたか？
3. 今後うけてみたい高齢者医療福祉セミナーがありましたら、具体的内容を教えてください。
4. 次回、セミナー開催時にお知らせを希望される方はご連絡先をお願いいたします。

(お名前、ご住所またはメールアドレス)

お知らせ

シドニー・NSW州在住日本人60才以上を対象に郵送による「高齢化に関する意識、ニーズ」アンケート調査を実施いたします。(St Vincent's Hospital, 渡辺)。なお、アンケートご回答いただきました皆様にはアンケート用紙返却確認後20ドルのギフトカードを差し上げます。お気軽に渡辺までお問い合わせください。

今回ご記入いただきました個人情報が高齢者医療に関するセミナー案内、アンケート調査依頼のみに使用させていただきます。ご協力いただきありがとうございました。

資料 3 : セミナープログラム (4 月 1 1 日、追加セミナー分)

日本人高齢者医療・福祉セミナー
第 1 回 : 日本の高齢者医療福祉の現状を知る

日時 : 2 0 1 5 年 4 月 1 1 日 (土)

Extension Room, Dougherty Community Centre

7 Victor Street, Chatswood NSW

プログラム

13:45	開場	
14:00 -14:10	ご挨拶	シドニー日本人看護師会 本田
14:10 -14:40	日本の医療保険システムと 高齢者医療の現状*	St Vincent' s Hospital 渡辺
14:40 -15:10	在豪日本人の現状とこれから考えるべきこと	創生会インターナショナル 沼田
15:10 -15:30	休憩	
15:30 -15:50	在豪邦人コミュニティーサポートの必要性と今後の活動について	創生会インターナショナル 沼田
15:50 -16:00	質疑応答、フィードバック用紙記入、 ご挨拶	シドニー日本人看護師会 本田

*先日、国立精神神経医療研究センターの早乙女先生が講演されたスライドを用いて、渡辺がかわりに発表

国立精神神経医療研究センター 早乙女 : リハビリテーション科医師。身体障害リハビリテーションに携わる

St Vincent' s Hospital 渡辺 : リハビリテーション科医師

創生会インターナショナル 沼田 : 在豪歴 2 3 年。2 0 1 3 年に創生会インターナショナルを立ち上げ、シドニーで家事代行・高齢者介護事業を運営している



このセミナーは公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けて
います

資料 4：セミナーフィードバック用紙（4月11日、追加セミナー分）

第1回：日本の高齢者医療福祉の現状を知る（2015年4月11日）

本日はお忙し中、日本人高齢者医療・福祉セミナーに参加していただきありがとうございます。今後も在豪日本人の皆様へ医療・社会福祉について日本語で情報を提供していきたいと考えております。セミナー改善のために役立たせていただきたいと思いますとおもいますので、少しお時間をいただいてこのアンケートにご回答いただきますようお願いいたします。

1. 本日のセミナーの内容はいかがでしたか？

2. セミナーの開催日時、時間、場所はどようでしたか？

3. 今後うけてみたい高齢者医療福祉セミナーがありましたら、具体的内容を教えて下さい。

4. 次回、セミナー開催時にお知らせを希望される方はご連絡先をお願いします。

（お名前、ご住所またはメールアドレス）

お知らせ

シドニー・NSW州在住日本人60才以上を対象に郵送による「高齢化に関する意識、ニーズ」アンケート調査を実施いたします。（St Vincent's Hospital, 渡辺）。なお、アンケートご回答いただきました皆様にはアンケート用紙返却確認後20ドルのギフトカードを差し上げます。お気軽に渡辺までお問い合わせください。（Mobile）0456 219 340（Email）

rehabilitationaustralia@gmail.com

今回ご記入いただきました個人情報が高齢者医療に関するセミナー案内、アンケート調査依頼のみに使用させていただきます。ご協力いただきありがとうございました。

日本人高齢者医療・福祉セミナー
第2回：オーストラリアの医療制度を知る

日時：2015年9月26日（土）
Dougherty Community Centre, 7 Victor Street
Chatswood, NSW

セミナープログラム		
12:30	開場	
13:00 - 13:05	開会のご挨拶	シドニー日本人看護師会 本田
13:05 - 13:25	在豪邦人コミュニティーサポート	創生会インターナショナル 沼田
13:25 - 13:30	質疑応答	
13:30 - 13:50	オーストラリアの医療制度（利用者の立場から）パブリック編	リハビリテーション科医師 渡辺
13:50 - 14:00	質疑応答	
14:00 - 14:15	休憩	
14:15 - 14:30	“もしケガや病気で入院したら” 実際の例・退院までの流れ	作業療法士/ケースマネージャー 徳能
14:30 - 14:40	質疑応答	
14:40 - 14:50	オーストラリアで医療通訳を利用する	医療通訳・翻訳者 松本
14:50 - 14:55	質疑応答	
14:55 - 15:00	質疑応答、フィードバック用紙記入, 閉会のご挨拶	シドニー日本人看護師会 本田



このセミナーは公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています

資料 6 : セミナーフィードバック用紙

第 2 回 : オーストラリアの医療制度を知る (2015年9月26日 土曜日)

本日はお忙し中、日本人高齢者医療・福祉セミナーに参加していただきありがとうございます。今後も在豪日本人の皆様へ医療・社会福祉について日本語で情報を提供していきたいと考えております。

セミナー改善のために役立たせていただきたいとおもいますので、少しお時間をいただいてこのアンケートにご回答いただきますようお願いいたします。

1. 本日のセミナーの内容はいかがでしたか？
2. 今回のセミナーをどこで知りましたか？
3. セミナーの開催日時、時間、場所はどでしたか？
4. 今後うけてみたい高齢者医療福祉セミナーがありましたら、具体的内容を教えてください。
5. 次回、セミナー開催時にお知らせを希望される方はご連絡先をお願いします。

(お名前、ご住所またはメールアドレス)

今回ご記入いただきました個人情報が高齢者医療に関するセミナー案内のみに使用させていただきます。

ご協力いただきありがとうございました。

資料 7 : ワークショップのお知らせ

「オーストラリアの医療制度（パブリック編）について学ぶ」

ワークショップのご案内

9月26日にオーストラリアの医療制度（パブリック編）についてのセミナーを開催しましたが、非常に複雑かつ大きなテーマであるオーストラリアの医療制度についての理解をさらに深めるため、少人数のワークショップを開催致します。「こういう場合にはどこに相談したらいいの?」、「こういったケースではこういった選択肢があるの?」といった、セミナーではカバーしきれなかった皆様からの具体的な疑問に、実際の医療現場で働く関係者が皆様と一緒に考えます。セミナーに参加された方で、さらに詳しくお知りになりたい方、また前回のセミナーに参加できなかった方は是非この機会をご利用ください。

開催日時： 2015年11月14日（土）

午後2時30分から午後3時30分（午後2時15分開場）

会場： Dougherty Community Centre, 7 Victor Street, Chatswood NSW

定員： 各セッション10名（申込み先着順）

お申込み・お問い合わせ先： 電話： 0456-219-340

資料は前回セミナーと同じ資料を用います。



このセミナーは公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けて
います

「オーストラリアの医療制度（パブリック編）について学ぶ」

（2015年11月14日）

本日はお忙し中、日本人高齢者医療・福祉ワークショップに参加していただきありがとうございます。ワークショップ改善のために役立たせていただきたいとおもいますので、少しお時間をいただいてこのアンケートにご回答いただきますようお願いいたします。

質問 1 本ワークショップはオーストラリアの医療制度（パブリック編）の理解を深めることを目的として開催しましたが、皆様のお役に立つものでしたか？

4. 役に立った 3. まあ役に立った 2. あまり役に立たなかった 1. 役に立たなかった

質問 2 今回のワークショップの内容についてあなたの満足度を教えてください

4. 大変満足 3. 満足 2. ふつう 1. 不満

質問 3 今回のワークショップの講演時間（1時間）についてあなたの満足の程度を教えてください

3. 丁度よかった 2. 短かった 1. 長かった

質問 4 このワークショップ参加の理由（きっかけ）をおしえてください。以下の当てはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも可）

1. 先日のセミナーに参加できなかった 2. 先日のセミナーでわからないところがあった 3. 個人的な質問をしたかった
4. 大人数より少人数のほうがいい 5. 医療のしくみがわからなくて困っている（身近に困っている人がいる）
6. 近い将来が心配
7. その他

今後うけてみたいワークショップ、コメントなどありましたら、以下に御記載ください。

今回ご記入いただきました個人情報は高齢者医療に関するセミナー・ワークショップ案内のみに使用させていただきます。ご協力いただきありがとうございました。

資料 9

第 1 回高齢者医療・福祉セミナーの様様

3月27日



第 1 回高齢者医療・福祉追加セミナーの様様

4月11日



資料 1 0

第 2 回高齢者医療・福祉セミナーの様

9月26日



資料 1 1

第 2 回高齢者医療・福祉ワークショップの様様

1 1 月 1 4 日

